

殺虫剤抵抗性を管理するためのブロック式ローテーション

島 克弥 氏

(デュポン株式会社)

日時：2015年6月26日（金）16:30～18:00頃

会場：明治大学生田キャンパス 中央校舎 0310 教室

殺虫剤抵抗性とは、同じ殺虫剤を繰り返し使用することで防除効果が得られなくなる現象のことです。農業害虫の防除に殺虫剤が本格的に使用されるようになったのは1940年代のことですが、1950年代には早くも殺虫剤抵抗性が顕在化しており、現在までに多くの害虫で問題が深刻化しています。特にコナガやハダニ類、アザミウマ類などに有効な殺虫剤は少なく、生産現場では対応に苦慮しています。

抵抗性の発達を回避する方法として、これまでは同じ殺虫剤を連用しない『ローテーション散布』が推奨されてきました。生産者の間でも意識が高まっており、ローテーション散布は一定の効果を発揮しています。しかし、抵抗性の発達は進んでいるのが現状であり、また、近年は従来のローテーション散布の問題点も指摘されていることから、抵抗性を管理する新たな方法が必要とされています。

今回のセミナーでは、殺虫剤抵抗性を管理するための『ブロック式ローテーション』について、その理論や効果を紹介して頂きます。殺虫剤抵抗性の現状を知る貴重な機会でもありますので、皆さま奮ってご参集下さい。